

6人の先輩インタビュー

# ニッケで働く、先輩たちの ありのままを大公開!!



頑張っている君へ  
就活応援メッセージ

**問**題解決の秘訣は「本質」が何かを見極めること

**あ**る人生の集大成にであう  
だからこそ知ることができたこの仕事の奥深さ

**ち**ゃんとやってたら人は助けてくれる  
得られるのは信頼という宝物



## ニッケは創立125周年

長い歴史と実績はニッケの誇りです。しかし私たちはそれに甘んじることなく、さらなる変革を目指しています。既成概念にとらわれず「顧客の声」を聴き、そのニーズをとらえた「独自性のある商品とサービス」を提供していく企業でありたい。作ったものを売るといった供給者の論理ではなく、市場の変化を読み取った新しい価値の創造、「みらい生活創造企業」を目指しています。

経営理念から外れさえしなければ、みなさんがやってみたいと思うことにチャレンジできる土壌がニッケにはあります。

## 日本毛織株式会社

本社：〒541-0048 大阪府大阪市中央区瓦町3丁目3-10  
TEL：06-6205-6620

【会社ホームページ】  
<https://www.nikke.co.jp/>



【採用特設ホームページ】  
<https://www.nikke.co.jp/recruit/>





問題解決の秘訣は「本質」が何かを見極めること。

吉田 晶

日本毛織株式会社  
衣料繊維事業本部 販売統括部 スクール販売部 東京営業所



困った時は、先輩後輩関係なく助け合うような関係でありたい。

八木 一平

ニッケ・タウンパートナーズ株式会社  
パークタウン事業課 営業・販促チーム 営業担当

## technical 技術系の先輩

チームで目標に向かう喜びを！生来のバランス役が職場で活きている。



畑中 智貴

日本毛織株式会社  
研究開発センター 素材・技術開発室



ちゃんとやってたら人は助けてくれる。得られるのは信頼という宝物。

鈴木 紀仁

日本毛織株式会社  
衣料繊維事業本部 製造統括部 印南工場 生産部 織絨課 準備係 係長



## 介護事業の先輩 nursing



思いもよらない喜びの声。人と仕事を通じて、変化した介護の価値観。

宮本 祐樹

株式会社ニッケ・ケアサービス  
ニッケつどい加古川 生活相談員



ある人生の集大成にであう。だからこそ知ることができた、この仕事の奥深さ。

國友 利晃

株式会社ニッケ・ケアサービス  
ニッケあすも一宮 施設長

先輩に聞いてみました！

入社のきっかけ、仕事のやりがい、  
なかなか聞けない失敗談から  
デスクや鞆の中までウォッチング！  
ぜひ読んでみてくださいね。



初めまして。ニッケ採用担当の河田です。

この度は、ニッケのパンフレットを手にとっていただき、ありがとうございます。

ニッケは、「人と地球に『やさしく、あったかい』企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジしていきます」という経営理念のもと、多角的に事業展開をしております。このパンフレットでは、そんなニッケで働く社員のありのままの姿、ありのままの働き方を掲載しています。どんな会社で、どんな仕事・働き方が出来るのか。就職活動をしている中で、気になるところではないでしょうか？このパンフレットを読んで「ニッケ社員の働き方」を知っていただくことで、新たな視点を取り入れて、興味のある仕事を見つけていくきっかけになると嬉しく思います。

これから多くの会社と出会うと思います。その中で「ここで働きたい！」、そう思える会社を見つけていただきたいです。

そして、その会社がニッケであれば幸いです。

これから皆さんとお会いできることを楽しみにしています！

日本毛織株式会社  
経営戦略センター 人財戦略室

河田 有希菜

## 問題解決の方法は様々。 秘訣は「本質」が何かを 見極めること。

2015年4月入社  
日本毛織株式会社  
衣料繊維事業本部  
販売統括部  
スクール販売部  
東京営業所

吉田 晶  
Yoshida Hikaru



### 現在のお仕事

営業4年目です。国内の工場で作った生地、私の場合は学生服に使用されている生地をお客様へ販売しています。関わるお客様は様々で、アパレルメーカーはもちろん、学校、保護者、学生。それぞれのニーズに合ったものを提案できるよう日々取り組んでいます。実は、営業の前は1年間、工場で生地の生産管理をしていました。そのおかげで、工場でのモノの流れや現場の方々と関係を築くことが出来ました。モノづくりの現場を見ていたことは、営業となった今、とても役立っています。

### 入社のきっかけ

ニツケの会社説明会の時に、ヨーロッパのハイブランドがニツケの高い技術で作った、すごく薄いウールの生地があった。採用してくれたと聞きました。こういうものを作れるニツケを誇りに思う、ということを抑っていて、自分も世界に誇れる技術力の高いものを売れる仕事がしたいと思いました。そして、それらを海外に広めていきたいと思い、入社をしました。

### 影響を受けた祖母の仕事

祖母が百貨店とかの一般衣料のデザイナーをやっていたり、パリとか、取材出張行っていたりとかして、かっこいいなと思ってました。それで海外にも憧れていたんです。お家に遊びに行ったりすると、生地の見本帳がおいであったりしたんです。その影響もあって小さいころはデザイナーになりたいと思ってました。将来は、自ら柄を作って提案できる営業になってみたい。できたら強みになると思うんです。

### 今まで仕事で一番辛かったこと

んーいろいろあって甲乙つけがたい(笑)。例えば、学生服だと一般衣料と違って、学校単位で考えると、学年集会で1年生、2年生、3年生と並んだときに、学生服の色味に差が出てしまったり統一感が出ないのでダメなんです。そういう意味では、色合わせの範囲というのがかなり厳しくて。だけど工場としては、工業製品なのである程度の管理幅の必要が出てきます。そこでの折り合いが、お客様との間でつかない時があった

### やりがいを感じるころ

お客様のご要望や課題をくみ取り、まわりの人に協力をいただくながら、解決に向けて動いて、最終的にお客様に喜んでくれた時がやりがいを感じますね。最近だと、「ZQ」という

ニュージーランド原料を使用した生地を採用いただいている学校に対し、「ニツケZQ環境教



育支援プログラム」を実施しています。このプログラムは、着用している学生が実際に原料となる羊を育てている牧場に行き、生産背景を学んでいただくものです。事前に、生産背景や特長を理解してもらう授業を行うのですが、1年目は座学中心で、「もう少し生徒にとつきやすい内容にしてほしい」と先生より要望があったんです。じゃあ、2年目はクイズとかを入れて参加型にしてみようって考えて、まわりの人に協力してもらいながら内容を作りました。そうしたら、生徒たちが初年度より、楽しんでくれていたし、ウールに対し興味をもってくれたのがわかりました。先生にもすごく喜んでもらってうれしかったです。体験当日、ニュージーランドの牧場で、普段とは違う経験が出来、生徒たちも喜んでくれていて、頑張ってたよかったですね。

### キャプテン気質というよりは、 間をとりもつタイプだった

高校、大学とハンドボール部でした。キャプテンではなくて、おしいところ取りするタイプでした(笑)。キャプテンはきつこと言わなきゃいけないけ

ど、それに対して後輩をなだめたりとか「まあがんばろうよ」とみたいないい人役ですね(笑)。それは冗談で、やっぱり人間関係が大事なので、チームのバランスをとるの意識していました。これが今の仕事でも役に立ってたりします。しかも、大学は女子のハンドボール部がなくて、男子に混ぜてもらって練習していました。今も社内外で向き合う人が、年代違う人とか、男性が多いんですけど、そういう所でもあんまり怖気付かずにいられるのは当時の経験のおかげかなと思います。

### 仕事で大切にしていること

自分のやれることを最大限にやるということに大切にしています。営業職としては、フットワーク軽快というのは意識して



女子力  
3点セットが  
決め手かな!



今、これを読んでいる君へ  
私は結構衝動的に就職先を決めてしまいましたが、明確に何やりたいかっていう夢がある人って、就活の時点であんまりいないんじゃないかと思ってるんです。逆に何やりたいって決めちゃうと、叶わない場合、できないことが辛くなっちゃう。やりたくないことを優先に決めるのではなく、譲れない軸、例えばワークライフバランスを大切にしたいとか、そういうところをまず考えて就職活動した方がいいと思います。その軸がしっかりしていれば、あまり辛さも感じないと思うんです。自分は何を大切にしているのか、をせっかくの就活の機会にじっくり考えてみてください。応援しています。

## お机 Waching

吉田先輩の



- ① イケメン付箋・一筆箋・マステ  
以上女子力3点セット。  
労ったりお願いするときには可愛く♡
- ② プリーツ加工会社様から頂いた  
布でできた折り鶴  
形状記憶なので振れば  
元どおり鶴の形に。
- ③ 学校の案件資料がどっさり  
整理整頓は欠かせません



困った時は、先輩後輩  
関係なく助け合うような  
関係でありたい。

2015年4月入社

ニッケ・タウン  
パートナーズ株式会社  
パークタウン事業課  
営業・販促チーム  
営業担当

八木 一平  
Yagi Ippei



入社5年目の今、  
感じる今

ショッピングセンター業界と百貨店業界で就活していた、たまたま見つけて応募しました。決め手は大手のところが社風も違いますし、不動産業ではなく繊維出身でいるんな事業に取り組んでいるところ、他のデパートと違うなと思いました。また採用担当の方が元ショッピングセンターの部署を経験されていたので、その人から色々具体的な話を聞いて、自分の過ごしてきた学生生活とあまり変わりなく、背伸びせずにあるのままで仕事ができるなと思ったので決めました。

入社5年目の今、  
感じる今

5年目になって、何となく自分のやりたいことを形にすることが結構増えてきたなと思っています。1、2年目とかは、とりあえず先輩について回って同じことをしていました。3年目になると同じことを一人でやってみようかと。4年目になってある程度任されて、初めて自分で考えて、こうしたらもっと楽しいかなとか、自分で思ったことを形にできるようになってき

ました。手応えをつかんできたのが4年目から5年目。今それがとても楽しいです。

先輩社員の本音

自分もやってきた同じものを、後輩にもやってもらうことがあるのですが、後輩自身のやり方もあるし、感じることもあるから、自分はこのう風にやっていたとか、全部を言いきらないように控えています。すると、「なるほどそういう考え方があったか」ということが出てくる時もありますし、「施設の想いはもったいないんだけどな...」みたいな所も出てきたりして、それはそれでも難い所もあり、面白いところでもありますね。もちろん、先輩として経験を伝えたり、意見することもきちんとしますので、それをまた次に生かしてもらえたい。

チームを組んでいる  
仲間として

僕、あまり嫌われたくないんです(笑)。というよりも、プロジェクトチームだし、うまくやっていきたい気持ちの方が強いんです。だから、周りの人たちから「もっと八木さんが注意しなきゃだめだよ」みたいなことを言われたりしますが、注意というよりも、もっとこうするにはどうしたらよいかみたいな自由な話し合いができるというのがいいなと思います。自分自身、言われると結構凹むタイプで、先輩からもそういうやり方で接してもらってきただけで、僕はそれがやりやすかったので、後輩には同じようにしてあげたいと思います。ある程度自由な発想でやって、困ったら先輩後輩関係なく助け合うような関係でありたいです。

ストレスを感じる瞬間

最近ちょっと白髪が増えました(笑)。職場のことというより、仕事の進行とかで急ぐことがあって。僕はマイペースなので、結構スケジュールに追われるのが苦手なんです。ある程度終わらせないと寝れなかつ

可愛がってもらったりしていま

引き継ぐだけじゃなく、  
その先を楽しみたい

テナントの従業員さんの教育や福利厚生を担当を任されています。予算やスケジュールは大体決まっているんですけど、意識向上のための研修や福利厚生のイベントなど、そのまま引き継ぐのではなく、もっと楽しんでもらうためにはどうしたらいいか、などその先の進化系を楽しみたいですね。企画、アイデア出しは得意ではないですけど、好きなんです(笑)。自分の考えだけじゃなくて協力会社の方、コンサルタントの方とかにも普段から積極的に「いまこんなことで悩んで」とか話すようにしています。そしたら「こんなふうですか?」「うちだったらこうがいいかも」なんて教えてください。有難いですね。

野望はいついつ

国内外問わず、自社以外のショッピングセンターで運営の経験をして、それでまた自社の施設に戻ってきて力を発揮したいと思っています。野望といえは、もっとその先の話ですけど、ショッピングセンターといっても敷地も広いので、商業以外にももっとできる事ってあると思いますし、開発とか町全体の価値をあげることもかにも積極的に関わりたいですね。

今、これを読んでいる君へ

最初は目の前のことややっていけばいいかもしれないけれど、だんだんそれが2周目3周目になると、自分で楽しみながらできるようにしたりとか、自分の想いを乗せて仕事ができるようになってくると思うので、そういう時をまずは目指して頑張ったらいと思います。

お机 Waching

八木先輩の



① 1年分のカレンダー

過去にさかのぼることもあるんです

② 折り込みチラシ

現在配っているものを把握

③ PCメガネ

事務作業が多いので目を守らなくては!

④ エナジードリンク

飲まなきゃやってられないですよ。なんちゃって

⑤ 元上司の写真

あげると言われて(笑)今もリスペクトしてます

たりとかして、それがちょっとしんどかったりします。今まで机には2ヶ月先までのカレンダーを置いていたんですけど、最近は1年分のカレンダーを使っていきます。先だけじゃなくて、過去のことの振り返りももあるので、1年通して見れた方が安心します。

リングを降りたその先に

施設のテナントの人とかテナントを管轄している本部の人、従業員さんも含めて、社外の人と話しているときに一番楽しいですね。売り上げの話とか、何で困っているという話は当たり前にするんですけど、例えばオープン前、結構ハードな交渉をしてきた本部の人なども、お店がオープンして順調に回り出した頃に「ちょっと加古川来たから。今どこにいるの?」と電話をもらったりするんですよ。交渉の時は結構庄の強い人とかも、リングを降りると以前よりも距離が近づいていたりして。そういうの、楽しいですね。本部の人だと、結構年齢も離れてる人が多かったりするんで、交渉の時は「この若造が」みたいに見られるんですけど、終わると



子どもの頃の夢は大型ショッピングセンターの開発・運営。あ、夢叶ってますね!



## チームで目標に向かう 喜びを！ 生来のバランス役が 職場で活きている。

2015年4月入社  
日本毛織株式会社  
研究開発センター  
素材・技術開発室  
**畑中 智貴**  
Hatanaka Tomoki



### 現在の配属に至るまで

私は現在の部署で勤務して2年ほど経ちますが、入社して3年間はグループ会社の「株」コーセンというところに駐在勤務していました。コーセンでは、テニスのガットとか釣りの糸製造している糸加工メーカーで、私は主に開発品の試作評価をしていました。テニスガットは、私自身も社会人サークルでテニスをしていることもあり、自分で開発した糸をラケットに張って、打って、なんか微妙だなあとかやっていました(笑)。今ニッケも糸の関係で、メディカル分野にも進出していますので、そのコーセンで学んだことを活かすために戻ってきた感じですよ。

### 踊る理系

よく理系ばくばくって言われるんですよ。高校までは色々なスポーツをやってはやめてと繰り返しでしたが、大学からは人と競わず体が動かせるものを探していたら、「よさこい」があてはまりました。よさこいは、自分たちが作った振り・衣装・曲で一年間踊っていくため、祭りという一つの目標にみ

んなで向かって、楽しめるような動きが良かったですね。仕事においても一つの目標に対し、チームメンバーの気持ちが向かうようにバランスをとっていくと思うのですが、重なる部分がありますね。

### バランス役を 任されるタイプ

昔から、まとめ役や代表を任せられやすい性格です。人間関係で様々じゃないですか。その中で一番フラットな立ち位置なのが僕だったのかなって思います。いわゆるバランス役という役割ですね。ここでもそうです。特に理系はクセの強い人が多いんで、マニアックな人も多いし。いろんな人がいる中で、時に控えたり、まとめる必要があるときはちょっと前に出たりとか。そういう手加減とかバランスは考えたりしてますね。

### 仕事の中でよかったこと

メディカルで使う糸の試作とか開発をしていたのですが、やっぱりその：費用的に高いんですね、この分野は。糸は、材料を機械に投入して、ビュートと押し出して作っており、その機械の操作はタッチパネルで押



すのですが、その1回のタッチで、自分の給料の何日分かが飛ぶような仕事なんです。分かっていたのですが、多めの試作をしたときに、年間の給料のどれくらいだっという量の原料を使ってしまった。確かに経験も浅かったのですが、あれが一番辛かったですね。さらに、「原因の分析をしる」といわれたのですが、メディカルというのはニッケとしてもはじめての分野なので、上司や先輩であつてもわからないんですよねそんな状況で「作っているやつが一番分かっているのだから責任を持って原因把握しろ」と言われて。その時はしんどかったです。対策を組むのに、一日会社で研究した後家に帰って参考書とかをめっちゃ読んで、朝になったら読んでやつを試してみようというのをひたすらやってました。自分で克服したい、自分で

改善したいという気持ちが強かったです。

### 先輩のフォローがあつての今

そんな時、年の近い先輩がすごいフォローしてくれました。飲みを誘ってくれたり、毎日のように声をかけてくれたり、毎日のことかたです。詳しくはないけどこういう事してみたらどうかとか、技術的なアイデアやアドバイスをくれるし、メンタルのケアもしてくれました。先輩が声をかけてくれるのは、ニッケの社風かもしれないですね。

### やりがい

研究開発センターでは様々な開発業務がありますが、自分の中でこうしたいと考えたら、まずは上司に「うん」と言わせるために材料を用意して、説得できたらそれを同僚とかグループ会社など、さらに人の協力を得ながら業務を遂行できるっていうところが今の部署でのやりがいと感じています。他にも、ニッケとしての新事業を自分で探して行くような業務もあって、マーケティング・プランニング・原料調達・試作評価したものをお客さんのところに直接持って



### 仕事をしていて嬉しかったこと

僕がコーセンにいた頃は、試作評価段階の業務が多く、生産から物流っていうところまで行ってなかったんです。今はその頃の業務が生産段階となり、作業のマニュアルやトラブル対処みたいなマニュアル関係もできています。これは、自分が検証して見出し出した結果が割と入ってたりするので、コーセンの方から生産状況などを聞くとか、あの時あれだけ苦しんだけど、コーセンで多少の利益になつているんだなというところは未だに嬉しいですよ。

月の1/3は出張。  
リュックを背負って  
あちこち行ってます。  
工具も常時携帯！

### 今、これを読んでいる君へ

自分の価値観をちゃんと知って大事にしてほしい。四十年間勤められる会社とか、給料がいいとかそういうところもあると思うけど、合わない環境にいることはしんどいと思うんです。だから、自分の性格、価値観をよく知って、会社が合うかどうかを一番重視するとよい。やっぱり自然体でいられる、素の自分を出しても良いと思える会社にはいられたら、入ってからもぶれない。判断の仕方は様々とは思いますが、説明会に行つて先輩の社員と話してみるのが一番近道だと思います。

### 畑中先輩の



### お机 Waching

- ① サプリメント  
つい野菜不足しがちなので^^;
- ② 電子メモ帳バッテリー付き  
打ち合わせには欠かせません。フル充電！
- ③ 工具 (ルーペ)  
糸の細部をみます
- ④ 工具 (六角レンチ)  
必需品。機械を分解するのにつかいます
- ⑤ 裁縫道具  
サンプルを止めたりするのにつかいます



ちゃんとやっていたら人は助けてくれる。  
まずは、目の前の仕事を懸命に。  
得られるのは信頼という宝物。

2012年4月入社  
日本毛織株式会社  
衣料繊維事業本部  
製造統括部 印南工場  
生産部 織絨課 準備係  
係長  
鈴木 紀仁  
Suzuki Norihito



現在のお仕事

現在、生産現場で現場管理、品質管理、生産計画を立てるというようなことをやっています。糸から織物にする工程の係長です。

入社のきっかけ

学生の時、繊維系のことを学んでまして、卒業するときなどにういった進路があるのかな、と検索してニツケにたどり着きました。もともと服が好きだったので、始めは繊維の研究をしてみたいと思っていました。ただ、仕事を探すときには、やっぱり現場で技術を磨きたいな、と思っていました。

今、一番楽しいこと

生産の計画を立てたものに対して、皆でフォローし合っていて、協力して、しっかり生産ラインに乗せていくという、とにかくそれがやりがいです。当たり前ですが、現場はチームワークが重要なので、いろんな人がいる中で（今は20人強）長所短所を互いに生かして、補いあって一緒に取り組む。これが楽しいです。

難しいなと思うこと

立場的なところですかね。新入社員だった当時、仕事を教えていた感じで、可愛がってもらって、お菓子くれたり（笑）そういう存在だった先輩方のことも、係長として戻ってきた立場としては、先輩にも指示をして動いてもらわなくてはならない。そこが難しいです。例えばある作業をして、ふっと思ふことがあって、「ご注意くださいくださいね」と言おうとしたけど、でもまあそれぐらいは分かっただけで、何もしないまま言わずにいたら、やっぱりそこで失敗したりするんです。ああ言っておけばよかったな、ってことはありますね。ルールをしっかりと作っておけば良かったとか、しっかりと伝えておけばよかったってことはよくあります。実際、どちらかというとずっと助けてもらっていますから。ここにいる従業員の方は、結構勤続年数長い人が多いんです。新入社員の方から顔見知り、そんな方ばかりですね。僕は仲いいと思込んでますけど（笑）立場的には自分がまとめ役。人間同士なんで色々ありますけど、みんなな仕事はしっかりやって、その上での信頼だと思っています。

今まで一番感動したこと

入社して2年目のときに、新しい機械が入ってくるということで、その機械の立ち上げを任せられたことがありました。2年目なんて何も知らない、実習終わってやっと入ってきたばかり。正直周りも、そんなの無理やろみたいな感じのわけですよ。僕は、なんとか自分の力でやりきりたいと思って、一生懸命調べてやっていたんです。そしてそれを覚えていた周りの人が手を差し伸べてくれたり、知恵を出してくれたんです。新しい機械のことだから、その機械のことが直接わからなくても、基本的な技術とか知識は、みなさんすっごい持っているのだから、色々教えてもらって勉強させて



もらって、何とかやり遂げた。それは嬉しかったですね。自分で言うのも何ですけど、ちゃんとやってたら人は助けてくれると思いますね。もちろん自分から助けを求めたりもしましたし、そんな時も快く教えてくれて有難かった。その経験と信頼で今があると思います。

人付き合いも味わい深く

僕はビンテージジーンズとか、ブーツとかが好きなんです。流行の服は流行が過ぎるとすぐ着なくなりませんが、逆にビンテージものは経年が味わいになっていきます。そういうグッズ履けるものもいいですね。いいものを買って長く使いたいです。人との関係性もそうかな。自分は結構クセが強くて、何もしていないのが好きだったり、あまり干渉されたくないみたいなどころがあるって、だから仲良くなるまでに時間がかかるんですけど、一旦そうなると長くつきあうタイプですし、職場でもそういう人間関係を大切にしていきたいです。

今、これを読んでいる君へ

僕の場合は説明会のあるときに、人事の方の人から惹かれて入社を決めました。僕は面接とかで、うまく自分を表現することが苦手だったんですね。そんな中、人事の方にじっくり見ていただき、僕の良さや改善すべき点まで見つけてくれました。今でもその方とは親しくさせていただいていますが、実際入社したら、人がら通りの雰囲気だった。会社の雰囲気や働くために、窓口ともいえる人事の人と、しっかり話したら良いと思います。



鈴木先輩の



①帽子  
工場の中では装着必須です



②パッチ  
安全啓蒙活動のために



③工程表用スタンプ  
これを使って工程表を作ることが大切な仕事！  
ビームというのは大きさのことです



④電話 内線を2つもっています。結構忙しいです（笑）

UK ロックが好き。  
それに、ビンテージ  
ジーンズやブーツも。  
古くなるほど質が  
上がるのが良さ！



せつきりやったけど、ちょっと恥ずかしくて」といって、一生懸命漢字を覚え、習字にしたら自分の習字セットを持って熱心に練習されていました。算数も他の利用者さんの答え合わせしてあげたり。素直にすごいと思いました。基本的にお年を召した方は、体の事もそうですけど、よくなるって事はなかなか無いから「現状維持しましょう」というのが、一般的な介護の姿勢ですけど、80歳になっても新しいことを覚えられてもっと成長できるのだと教えられ希望をもちました。他にも生活の知恵や工夫を教えてくださいました。人生の先輩として尊敬することばかりです。

**もっとコミュニケーションをとりたい**

最初が小規模多機能って18人ほどの少人数制だったんですけど、デイサービスに異動になると、大規模で最大定員が55人。どうしても一人一人との関わり合いが薄れてくる感覚がありました。もちろん業務としてもボリュームが多いので、1日過ぎるのも早いし、仕事をしたという充実感もあるけれど、一人一人のことを僕がわかって



ないなと感じたときか、利用者さんから「もうちょっとお話ししたかったな」と帰り際に言われたりしたとき、ちょっとびっくりですね。改善策としてはなかなか思うようにはいかないので、各テーブルを全部回って、じっくりは無理だとしても、「調子どうですか」「よう足動いてますね」という感じでお一人ずつと会話するようにしました。

**実際に社して感じていたこと**

見学の時に感じた通りでした。働いている人たちもよくしてくれて、施設全体が自分にも利用者さんにもあったかいところだなと感じています。僕はあまり親戚同士集まることもなかったのですが、大勢でテーブル囲んで夜ごはんを一緒に食べてい

ると、ほんまに親戚・家族みたいな感じで嬉しんですよ。研修や休みとかで、しばらく顔を合わせない利用者さんと久々にお会いしたときなんか「宮本くん何日ぶりやん！何月何日から会ってないで」って、日にちまで覚えてくれていたり(笑)。「おらんかったら寂しいで」と言ってもらえて、嬉しかったですね。

**今、これを読んでいる君へ**

介護に関してのイメージやテレビ、ネットでみかける記事は暗い話題の物が多いと思います。正直に言うと、自分自身も介護に関してもあまりポジティブなイメージはありませんでした。そして実際に介護の仕事をしてみると、想像通りに辛い事もたくさんあります。でもそれ以上に楽しいと思えることが沢山ある。と言うのがこの仕事を2年半やっている私の正直な感想です。就職活動大変だと思いますが、無理をせずに頑張ってください。



個人のデスクは特になし。座っているよりも利用者さんと触れ合っている方が多いかな

宮本先輩の

お机 Waching



施設内では、宮本くんと呼ばれています



エントランスには、職員さんが描いてくれた全員分の似顔絵が貼ってあります



思いもよらない喜びの声。前向きな利用者さん。人と仕事を通じて、変化した介護の価値観。

2017年4月入社

株式会社 ニッケ・ケアサービス ニッケつどい加古川 生活相談員

宮本 祐樹 Miyamoto Yuki

**入社のきっかけ**

学校で求人票をみて興味を持ったのがきっかけです。施設見学では、本町のグループホームを見ていただいたのですが、他社は病院みたいな感じで蛍光灯も冷たいという感じだったので、ニッケのグループホームはともアットホームというか、「ほんまに家やなあ」という印象を受けました。こういうところなら利用者さんも過ごしやすいだろうし、自分も働きやすいだろうなって思ったんです。

**介護職を選んだわけ**

人の役にたつような仕事がないかと思っていて、最初は保育の方面も行きたかったんですけど、自分が祖父母と暮らしていたので、介護のほうがいいのかないかと思って。といっても、学科も特に介護の勉強していたわけではなく、施設見学時も、まるで小学生の社会科見学っていう感じでした。

**やりがいを感じた転機**

最初、日帰りで利用が出来るデイサービスではなくて小規模

多機能施設への配属だったので、その時に毎月の行事の担当があるんですよ。初めて担当することになったのが10月で、秋祭りだったんですけど、お神輿をダンボールで作ったんです。毎日のお神輿を作っていて、正直どうして残業までしてこんな事せなアカンのやろって感じだったんです。でも当日、秋祭りが始まって、歩ける人は職員と一緒にお神輿担いでもらったり、歩けない方は『しで棒』を持ってもらったり、太鼓を叩いてもらって参加していただきましたが、ある利用者さんが「外にも出れないし施設で介護を受けるようになって、こんなことができると思わなかった」って言って、泣いて喜んでくれていたんです。僕らからしたら、祭りに行くことと思えば行けるのが当たり前で、しかも外の祭りに比べたら、施設の秋祭りは「大した事してあげるわけでもないし」なんて思っていたのが、利用者さんたちの表情をみて感動して、やりがいを感しました。

**体力的にはつらいけど精神的には意外にタフ**

利用者さんからは「宮本くん」とか、「おにいちゃん」と親しく声をかけてくださる場合が多いんですが、たまに、昔軍隊に召集されてたから若者に厳しいみたいな人から、「なんやお前」って感じで絡んでこられる時もあります。職員さんたちはやさしく「心折れないでね」と気をつけてくれるんですけど、僕としては、別に家帰ったらおらんしなあ、みたいな感じで(笑)あんまり気にしないうすかね。仕事で精神的につらいっていうよりは、業界全体的に人が足りないんで、体力的につらいことがあります。

**介護の価値観が変わった**

ここで、漢字と算数とを覚えた男性がいらっしやっただから。「学校に行けなかったから、漢字書かれへんねん。妻に任





ある人生の集大成にであう。だからこそ  
知ることができた、この仕事の奥深さ。



2010年4月入社  
株式会社  
ニッケ・ケアサービス  
ニッケあすも一宮  
施設長  
**國友 利晃**  
Kunitomo Toshiaki

**ニッケに決めた理由**  
現在、入居定員58名、スタッフ約40名の介護付き有料老人ホームの施設運営に携わっています。ニッケとの出会いは就職活動でした。あらゆる業種の説明会に足を運んでいましたが、ほとんどが大規模な説明会でした。そんな時ふと見つけたニッケは、少人数制の説明会を実施していました。はて、どんなところなんだろうと実際行ったら一対一だったんですよ(笑)。たまたまでしようけど、人事の担当者も「一対一だから気軽に話しましょうよ」、みたいな感じで。途中で先輩社員の方もいらしてきて。それでこの会社って変わっているなあ、面白いなあというのがあって(笑)。その後、話を聞く中で、ニッケは多角的に事業を展開しているの、正直やりたいことが決まらなかった僕は、入社後もしかた、将来的に色々なことが出来るんじゃないかと考えたんですね。普通なら、もしその業種が合わなかったら転職という風になることを考えると、入社してから様々なフィールドがある方が、自分には合っているの

かなと思いついて。一方で、出身地の信用金庫に内定ももらっていて、信用金庫を選択すれば、出身地から一生出ないことになる。ニッケを選択すれば、未知の大阪へ行くことになる。そう比べた時に、よし思い切ってニッケに行こう、と決めました。

**介護事業部へ配属されたけど...**  
私の入社した時は、3ヶ月間で全ての事業部を数日ずつ回るという集合研修があって、やってみながら人事の方とその都度面談をして「今どういう心境か」というのを確認されたんですね。ニッケに入ってからやりたいことといったら、まずは繊細かなと思っていましたけど、同期で「俺は繊維をやるために来たんだ!」という熱い人がいたので、そういう人がやっていた方がいいだろうなって思いまして。じゃあ自分は何がやりたいのかなと思つた時に「人と接する仕事かしたいです」と言ったら、介護事業部へ配属となりました。配属されてから利用者さんたちの隣に座って、さあ何を話そうか、みたいな感じになりましたね(笑)。祖父母は遠く

にいて一緒に暮らしたこともないですし、普段から高齢者の方と関わった経験がほぼありませんでした。でも若いってだけで興味を持ってもらえて、たくさん話してもっとも僕のことわかっていただきたいと思つたし、逆に僕も皆さんのことをわかってほしい、親しくなっていきたいという気持ちになっていきました。

とはいえ、入ってすぐの頃は、少しでも楽しんでもらえたら、喜んでもらえればいい、なんて思っていたんですけど、いざとなると知識がなければ何もお手伝いできなかつたり、怪我をさせてしまう可能性もあります。そういう危険を感じた時に、とにかくこれではいけないな、と気持ちを引き締めました。

**看取り体験を通じて**  
その女性の方は癌の末期で、余命3ヶ月と言われてうちに入



居されたのですが、その時は本当にいつ亡くなってもおかしくないくらい元気がありませんでした。

いつもはお部屋にいらつしゃつて、食事の時だけ出てきて、というくらいの動きしかとれないんですけど、しばらくしたら活気が出てこられて、余命3ヶ月と言われたのが最終的には1年半ぐらいい頑張られたんです。途中で何度も痛みにも耐えながら、意識も朦朧として...という波を繰り返されながら、終末期を迎えられるのですが、職員としても「もういよいよだね」という覚悟を決めさせていただきました。そして最期、病院に行くかの決断を迫られた時、ご本人が「ここにいたい。ここに来れたから今日まで頑張れた」と仰ってくださいました。その方は元々経営者でいらして、僕が施設長として人を動かすとかってこういうことに関しても「あなた、そんなんじゃないかよ。それじゃ人はついてこんよ」とお叱りを受けたりしてました。女性の年上のベテラン職員さんが多いので、若造の自分が上司として言わなければいけないけど、気を遣って言えないっ



ていうことがあったんですけど、「私が教えたよ」というので、夜ずっと話をしてくれたい思いもありました。

本当に人生の先輩から、自らの身を以って教えていただけるところってというのは、ものすごい深みがあるなと、この仕事を通して感じます。終末期には、周りの家族の方とのつながりだったり、その方が生きて来られた人生すべての集大成をみさせていただく、こういう仕事はなかなか経験することはできないでしょうし、仕事以外で高齢者の方と触れ合っているだけでは、分かることでもないような、しみじみとした奥深さっていうのは感じます。そして、いつかやってくる自分の最期の時に後悔しないように今から何が出来るのかな、ということを考えてたりもします。

趣味は整理整頓です!  
はい、冗談です

國友先輩の

お机 Waching /



① 感情的にならない気持ちの整理術  
酔ったいきおいで買った本



② 社員心得帖  
本気でスタッフのことを思い入手した本

③ 小銭 何かあった時のために



④ ピアノの CD  
癒しのためかと思いきや、レクリエーションのためです

今、これを読んでいる君へ

やりたいことが明確にあったとしても、それがすぐに出来るかというと、なかなか難しいと思うんですね。なので、与えられた環境に置かれている状況で、今自分に何が出来るのか、っていうのを真剣に考えて、ひたすら仕事に打ち込んでいく。そういう辛抱も少しは必要だと思ふんです。とにかくやるということ、自分にはこんなことも出来るのか、という発見もなると思えますし、そこから得ることもたくさんあると思うので、辛抱強く頑張ってください。

